

(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: **2000331089 A**

(43) Date of publication of application: **30.11.00**

(51) Int. Cl

G06F 17/60
G06F 15/02

(21) Application number: **11307410**

(22) Date of filing: **24.09.99**

(71) Applicant: **KAWASAKI NOBORU**

(72) Inventor: **KAWASAKI NOBORU**

(54) **METHOD AND DEVICE FOR PERSONAL LIFE INFORMATION AND ACTION MANAGEMENT**

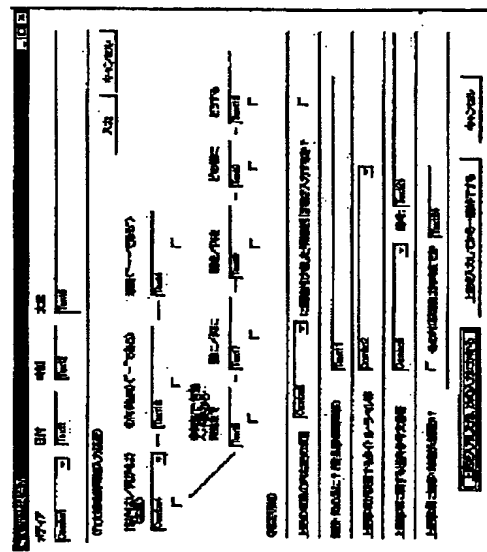
high-grade intellectual production. Tools for processing of information are prepared.

(57) Abstract:

COPYRIGHT: (C)2000,JPO

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain a method which scans voluminous information, which occurs in daily life, without omission as much as possible and collects, arranges, and records particulars of the contents in detail so that they can be processed in a high grade and be effectively used and relates respective elements to particulars of the contents without omission to record them in as significant form as possible from memory and conception of each person which are apt to fade.

SOLUTION: A check list is used to acquire and record mediums such as mails, meetings, and broadcast, where information has occurred, without omission, and a syntax of 'who, when, where, whom, what, and how' is traced and significance is given to particulars of facts to remember the information without omission, and additional information related to this information is set to acquire and record much detailed information. A relational data base is used to store the recorded information. The recorded information is surely and quickly retrieved and extracted and is added, changed, and processed without being transferred and is bound to



(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-331089

(P2000-331089A)

(43) 公開日 平成12年11月30日 (2000. 11. 30)

(51) Int.Cl.⁷

G 0 6 F 17/60
15/02

識別記号

3 5 5

F I

G 0 6 F 15/21
15/02

サーチコード (参考)

L 5 B 0 1 9
3 5 5 A 5 B 0 4 9

審査請求 未請求 請求項の数 6 書面 (全 8 頁)

(21) 出願番号

特願平11-307410

(22) 出願日

平成11年9月24日 (1999. 9. 24)

(71) 出願人 597104167

川崎 ▲昇▼

東京都杉並区本天沼 3-44-14 コーポ本
天沼604号

(72) 発明者 川崎 ▲昇▼

東京都杉並区本天沼 3-44-14 コーポ本
天沼604号

Fターム (参考) 5B019 HC01 HD02 HE13 HE19 KA01
KA04 KA10

5B049 AA01 AA02 BB00 CC00 CC31

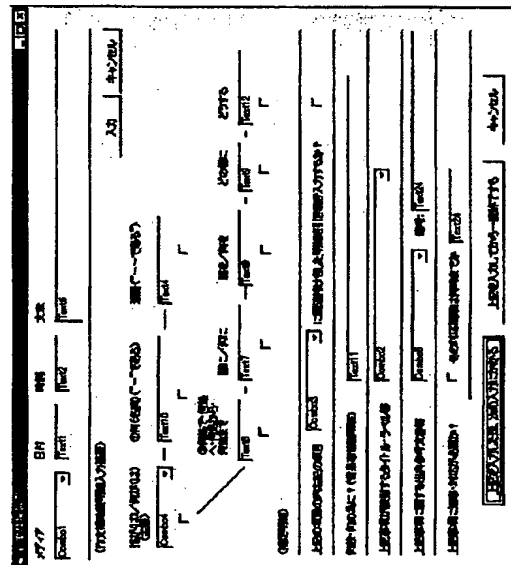
DD01 DD05 EE05 FF03 FF09

(54) 【発明の名称】 個人生活情報・行動管理装置及び方法

(57) 【要約】

【目的】 日常生活で発生する膨大な情報を可及的に多く漏れなくスキャンし、又、その内容明細を詳しく、以後の高度加工、有効利用が出来る様に収集、整理、記録する。各個人の失われやすい記憶や発想からその内容明細をなるべく意味のある形で各要素を漏れなく関連付けて記録する方法を提供する。

【構成】 情報がメールや会議や放送等どんなメディアで発生したのかチェックリストを使って、漏れなく捕捉記録出来る様にし、又、発生した情報は「誰がー何時ー何処でー誰にー何をーどの様にーどうした」といった構文を辿る事で事実の明細を意味付けをした上余さずに想起し、これに関連する追加情報を設問することで「多くの」詳細情報を捕捉し記録する。情報の記録はリレーショナル・データベースを利用し格納する。記録された情報は確実に迅速に検索抽出され、転記の必要なしに追加、変更、加工して高度な知的生産に結び付けられる。情報の加工の為にツールも準備している。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 コンピュータ・プログラムの初期画面に別紙図2の如く、「カレンダー」、「懸案事項一覧表」、「今後の予定表」、「今日の日記」、「Daily checklist」（「健康管理等チェックリスト」）等の画面を配置し、夫々の内容を既に入力保存されたデータベースから自動的に内容を選別表示し、プログラムを開いた瞬間から利用者に対し備忘録・掲示板としての個人生活の情報提供や警告を与える事で、利用者が直ちに利用開始できるようにした装置及び方法。

【請求項2】 「ライフデータベース」は1件のレコードとして入力毎に、このレコードが含む属性情報の全ての明細を関連付けて配列を行い、コンピュータ上のリレーショナル・データベースに格納する方法である（別紙図面3参照）。

【請求項3】 「作文補助兼明細入力装置」（別紙図1の中央部に表示）は「誰がー何時ー何処でー誰にー何をーどの様にーどうした」といった標準的な構文を辿る事で、発生した事実、想起した考え等を意味付けて情報の明細を余さずに文章化せしめる為のツールである。夫々の明細項目を入力しボタンを順番に押すと文章が作成される。但し、簡潔なステイトメントは最初から「文章」欄に入力する方が便利なケースもあり、その場合は前記とは逆の過程を辿り、文章を構文解析し文章の構成要素毎に分解した明細を記録保存する。こうする事により、記録情報の正確性を増し、爾後の検索等を容易にする。本装置は「明細想起記録装置」であるとも理解される。

【請求項4】 「心象具現装置」（別紙図1参照）は日常生活で都度発生するあらゆるタイプの情報を効率的に具体化し爾後の高度利用が可能になる様に明細を整理、記録入力する為のツールである。発生、想起された個人の情報は全て本「心象具現装置」経由で「ライフデータベース」（

【請求項2】）に記録保存される。記録すべき内容の明細を可能な限り詳細に入力し、これを文章化する補助装置として「作文補助兼明細入力装置」（請求項3参照）が準備されている。

【請求項5】 「懸案事項一覧表」は日常生活のなかで種々の課題が発生するが、明確な記録がされなかったり、念頭から忘れ去られ、達成され無い事で、日常生活に不自由を齎す弊害を避けるための工夫である。入力された対応期限が現在に近い順に上から下へリストアップされ、本システムの初期画面に常に表示される装置及び方法。

【請求項6】 「簡易情報加工装置」は画面いっぱい多数の情報を個々の小容器に収納したものを並べ、情報の高度化加工処理をマウスでのドラッグアンドドロップを使用してビジュアルに行う装置である。各項目の意味内容の包含関係を分析し、大項目、中項目、小項目等に分類しアウトライン・プロセッシングを行う装置（図4）

及び、各情報をグループ化配置したり、配置換えを行って、総合的な図解化を行うことでその意味内容を考慮の上、徐々に概念を形成、理論構成、情報の高度化を進めてゆく装置（図5）が準備されている。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 個人の生活は多種多様な情報を常に受信し、処理し、発信する事でなりたっている。この情報処理は普段の経験、学習、思考により各個人が実行している事であるが、その殆んどを無意識的な脳の働きに負っていると言っても過言ではない。ややもすれば、環境の流れの中で受動的になりかねないが、個人の主体性を取り戻し、意識的、能動的な知的生産を増加し、生活改善を計る必要性が存在する。個人の意識的な情報管理としてノートやメモを記入したり、日記を書く事は古来から行われてきたが、個人生活時間が以前よりも増加した現在と謂えども、誰でもが実行しているとは言えず、これの有効利用のされ方にも疑問がある。この点を、コンピュータの持つ強力な能力を利用し、又、日記を付ける事の意義を見直し、個人情報・生活の管理をシステムティックに見直し、コンピュータ・アプリケーション・プログラムとして準備したものが本発明である。

【0002】

【従来の技術】 コンピュータ・ソフトとして市販されている「日記」ソフト、又は、スケデューラと呼ばれる行動予定表でカレンダーと連動するものは数々あるが、時間がたてば、行動予定であったのか、過去に発生した事実なのか不明なものが多く、訪問、会合等の行動予定を記録するのが主用途で、それらの行動の結果得られた情報の高度利用についての考慮が不足な事が多い。即ち、意識的に成るべく多くの情報と正確な内容明細を効率的に収集する為の工夫、及び、収集した情報の高度加工利用の為の工夫が不充分である。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 日常生活で発生する膨大な量の情報の処理を情報の収集、整理、分析、保管、検索、処理、加工、等に関して、意識的、能動的にコンピュータと言う有効なツールを利用して、生活の改善に資する事が大きな課題である。従来、情報の記録は単語、文節、文章を紙に書き付ける方法が一番多用されてきた。これらの情報をコンピュータを使って処理する頻度が非常に大きくなってきた。然し乍ら、今、問題として残った課題は、それら情報の記録、整理、保管、処理、加工はバラバラの機器やシステムで個々のファイルに行うしか方法が無く、その利用、活用の方法に統一されたものがなく、夫々に多大な時間を要し、各個人に措いては技術進歩のメリットを十分に生かしきれていない事である。一般的な日常生活で次から次へと発生している雑多な情報を如何に上手に（効率的に、効果的に）扱

って知的生産を増加し生活の向上を図るかと言う点が一番大きな課題であると考え。発生時点の情報は明確で纏まって文章化されたものでないケースが圧倒的に多く個人の記憶や発想は短時間に失われてしまうことが多い。もし、纏まって文章化されたものであれば、今度はそれを転記する問題や保存場所を探す問題が生じる。

【0004】

【課題を解決する為の手段】生活上で発生する情報には視覚情報、音声情報もあるが、それらも言語化される事により高度な加工が容易になるので、本発明は言語化された情報のみを対象にする。人の思考過程を振り返ってみると、最初に思考の対象に焦点が当てられ次にこの対象の属性や他の対象との関係等が徐々に追加されて構造化されて行く事が多い。従って、情報収集の対象は言語化された単語、文節、文章の全てを含まねばならない。文章化の過程で単語や文節の意味論的な性格や属性が明確化され、より高度な情報が収集記録可能となる。収集の段階でルーティンとして時間の許す範囲内で情報の明細化及び関連付けを行い、爾後に更なる高度化が計られる様にすることも重要である。この為の入力装置を準備した。情報の利用で非常に重要な事は「整理」であるが、この課題を解決する為に、単語、文節、文章全ての情報を単一のファイルに単一のフォーマットで収集、記録、格納し、統一された能率的な管理方法でファイルを利用、加工する事とした。こうする事で情報を単語から文章へ、文章から文章の集合である論文や文学作品、又は日常の連絡文書等の制作に役立つツールを用意する。

【0005】

【発明の実施の形態】情報一件毎の内容の別々の要素の数が多ければそれだけ情報量が多く有用であると考えられるので、オリジナルの情報一件毎の成るべく全ての要素を記録できるようにする為のツールを準備する必要がある。この為に、入力装置に工夫を凝らし、情報を簡単に文章化出来る場合はその文章を最初に入力し、さも無い場合は、情報のオブジェクト、又は要素、又は属性を構文解析をしながら、一つづつ拾い上げて記録し、更に、これらに関連付けられる別文章、背景事情、タイトル名等、出典・別メディア・ファイル名等補足情報も追加出来るようにした。

【0006】発生した事象や、学習した項目、その他思いつく全ての事柄を洩らさずに想起できる為の補助として、入力画面冒頭の「メディア」項目にチェックリストとして、記録事項の入手経路の一覧表を準備している。

【0007】情報は短時間で失われる事が多いのでこれの記録をなるべく簡単に、迅速に入力出来るように工夫した。自動的に項目入力が行われるもの、項目を予めリストアップしておきボタンで選択するのみで入力可能なものを多くする事を心がけた。

【0008】発生日付け、開始時刻は入力時のものを自動的に表示するが、これ以外の日時に訂正入力が可能と

なっている。

【0009】多く準備されている補足情報等の項目は必ずしも入力時点で全て入れなくとも良く、後日になって追加することも可能である。

【0010】図1の入力装置はデータベース部分と別のハードウェア（例えば携帯型の機器）にインストールし一時的にテキスト・データ形式で簡易に小容量で記憶保存して置き、旅行先や講習会等で入力したものをサーバ・マシンたるデスクトップ機器に転送入力する事も可能である。

【0011】本発明によるデータは内蔵された加工処理の為のアプリケーション以外にも、テキスト・データとして新規に新たな別ソフトにデータを転送して加工、利用する事も容易である。

【0012】図1「心象具現装置」によって入力作成されたデータは図3「ライフデータベース」に転送記録されるが、「心象具現装置」は「ライフデータベース」がインストールされているのと別のパソコンにインストールすることも可能になっているので、他のパソコンで入力されたレコードを記録保存する事も可能である。

【実施例】

【0013】請求項4「心象具現装置」（別紙図1参照）の中の入力項目「メディア」に使用するコンボボックスのリストは下記のものが考えられる。

来発信E-MAIL

来発信電話

来発信郵便物・送付便

面談・会議・講習会等

新聞・書物等

TV／ラジオ番組

独想

上記は初期設定（DEFAULT）であり、利用者の必要によりカスタマイズが可能である。

【0014】図1日付欄は発生日付け、開始時刻を入力するものであり、初期設定として入力時のものを自動的に表示するが、これ以外の日時に訂正入力が可能となっている。訂正入力された日付が現在時より先の場合、入力日時は発生日時として取り扱われ、データベース上の入力日時には入力日時が自動的に記入される。入力日時が現在以降のものであれば、このレコードは今後の予定表に表示される。

【0015】図2初期画面には各種の操作ボタン等を配置し、同1画面の中を移動するのみで各種の機能を備えた装置を利用、操作できるように設計されている。

【0016】図2初期画面上の「今後の予定表」、「今日の日記」は「カレンダー」に連動しており、「カレンダー」上で指定された日付けに応じた3日間分の「今後の予定表」、「今日の日記」の内容が表示され、各時点での当日分の予定と実績記録の比較を行う事が可能となっている。

【0017】図2初期画面上の懸案事項一覧表では期限が迫ったものは警告が発せられる。期限までに達成されない場合は期限を延長できるが理由説明を求められ、延長履歴が表示されるようにする事も可能である。尚、達成不要となった事項、もしくは達成されたものはボタンを押す事で一覧表から削除される。

【0018】図2初期画面上の今日の日記欄は当日の予定事項と比較し実際にあった事との比較から、新しい約束事や情報入手等を想起する助けになる様に画面配置を行った。

【0019】図3「ライフデータベース」は構成は図面どおりであるが表示項目は余分なものは非表示とする事が可能である。全項目に関して全レコードをスクロールして閲覧することも可能である。

【0020】必要レコードを検索するのは入力に使用した図1「心象具現装置」と略同様なダイアログ・ボックスの検索画面に「メディア」、「発生日付」、「開始時間」、「文章」、「誰が(は)／何が(は)」、「何(名詞)」、「(―)である」、「述語(― “である”)」、「何処で・何処へ・何処から・何処まで」、「誰に／何に」、「誰を／何を」、「どの様に」、「どうする」、「何故・何の為に」、「タイトル・ラベル」、「出典・参考ファイル名等」、「備考」、「対応の要否」、「対応期限」の上限18項目を指定して、それらに該当するレコードを検索できる。

【0021】上記の如く検索された各レコードは個々に不足情報を追加、既入力事項の訂正等を行う事が可能である。

【0022】又、検索情報を該当するものを一括して別ファイルにコピーする事も可能である。この機能は、例えばある特定の「タイトル・ラベル」の下に関連レコードのみを集中し別のファイルを作成したり、関連全レコードを印刷して、論文や文学作品の土台とすることが可能となる。

【0023】本考案では「KJ法」として知られている川喜田二郎博士が考案された創造性開発の技法(「発想法」中公新書参照)を模倣的にコンピュータを利用して実行する方法を準備している。「ライフデータベース」に蓄えられた情報の集合を一つ毎に小さな紙片にプリントアウトし(手で書き写しの必要無し)、これ等紙片を大きな用紙に張り付しオリジナルな方法として実行する以外に、作業台に似た「簡易情報操作装置」と名づけたコンピュータ画面上(請求項6参照)で、個別に一つ毎の枠内に収納された多数の情報をマウス等を使い分類や分析、組み合わせ、置き換え、移動等の操作を行うものである。「KJ」法は通常は多数のメンバーで実施するが、本考案は単独でも実施可能であり、又、E-MAI

Lを利用し多数の人間が夫々作業し、後にその結果を取り纏めることも可能である。上記の形でKJ法を実行すれば、転記等の手間が掛からぬこと及び多くのメンバーのスケジュールを無理に調整する事なしに「取り敢えず」実行開始でき、生産性の向上が計られると考える。

【発明の効果】

【0024】言語化される情報は単語、文節、文章レベル全て単一のファイルに入力時間順に記録され、18項目にものぼる検索キーにより検索可能であり、従来の如くメモや日記帳による記録では何処に記録されたか分からないと云う問題が解決される。

【0025】情報入力時に整備された各種のツールにより詳細を漏れなく容易に想起でき、1項目毎の入力文字数も多い上に、入力項目数も多く、限られた容量のコンピュータにも莫大な分量の記録が可能なデザインとなっている。

【0026】入力する情報を正確なものにする為に色々な角度から捕捉し可能な限りの詳細を記録できるようにしていると同時に、持ち時間の関係で取敢えず簡易入力し、爾後に明細を追加することが容易である。

【0027】情報を一箇所に集中する結果、蓄積された情報の分量が多く、各レコードが追加改善されていく様になっているので、爾後の情報の高度化、利用、加工を図る際に相乗効果が現れる。

【0028】捕捉した情報を特に意識しないで入力してゆくだけでも「今後の予定表」、「今日の日記」、「懸案事項一覧表」が自動的に初期画面に表示され、行動を管理する用途があり、一々黒板やカレンダーに転記する必要がない。

【0029】本発明の「心象具現装置」を言語処理ができる携帯型パソコンに装備すれば、会議でのメモや移動時間の想念の記録等で知的生産が飛躍的に拡大する。

【図面の簡単な説明】

【図1】図1は、請求項4で「心象具現装置」と名づけたデータベースへ情報を入力する装置の画面である。

【図2】図2は、請求項1に記述した本発明の初期画面である。

【図3】図3は、請求項2で「ライフデータベース」と名づけたリレーショナル・データベースの構造を示すサンプル画面である。

【図4】図4は請求項6で「簡易情報加工装置」と名づけた画面でアウトライン・プロセッシングを行うものの画面である。

【図5】図5は請求項6で「管理情報加工装置」と名づけた画面でKJ法等を実行する時に使用するものの画面である。

◆ 単品登録画面

メディア	日付	時刻	文章
Combo1 ▾	Text1	Text2	Text3

(作文補助説明補入装置)

			入力	キャンセル
誰が(主語) / 何が(主語) <small>(主語)</small>	何(名詞)でーである	述語(ーである)		
Combo4 ▾	Text10	Text14		
「 〇何処へ・何処から・何処まで 誰に／何に 誰を／何を どの様に どうする Text5 - Text7 - Text8 - Text9 - Text12 「 「 「 「				

(補足説明)

上記の項目の内右記の項目	Combo3 ▾	に関連付けをした明細を引き続き入力するか?	「
何故・何のために? (背景事情説明等)	Text11		
上記事項が該当するタイトル・ラベル等	Combo2 ▾		
上記事項に関する出典参考文献等	Combo5 ▾	備考:	Text24
上記事項に返事・対応が必要か?	「 その対応期限は何時までか Text24		

[上記を入力した後、次の入力にかかる]
[上記を入力してから一度終了する]
[キャンセル]

2000年

1999年5月11日 火曜日

★1999年5月11日

5月11日

1999年	5月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31		

1000 NTT本社ビルから	11:40 山田氏に電話	12:00 K是美田氏と会食	14:00 ネットワークセミナー
----------------	--------------	----------------	------------------

5月12日

8:30 大坂出張からリターン	12:30 C(株) 森本邦泰に面談	18:00 同前会	20:00 Londonへ電話
-----------------	--------------------	-----------	-----------------

5月13日

8:00 早朝会議	14:30 C(株) 佐藤氏面談
-----------	------------------

通成期間 他業事項

- 5月12日 朝型レポート作成
- 5月12日 プリントワークス購入
- 5月20日 「3ヶ月でセキヤリ」通知
- 6月20日 2/27 監査院報告書

★5月18日

★5月18日

Daily Checklist

5月19日

5月19日

5月19日

「ライフザ・クベース」

ID	ﾏﾏｲ	誕生日付	開始時刻	入力日時	文章	姓名/何姓	頁(名前)	添削(二であら)
1	E-MAIL	99/05/08		98/05/05 21:00:05	5月20日の受取通知書印刷	Mr. Henriques		
2	TEL	99/05/13	8:00:00	99/05/07 20:00:00	早期会議			
3	秘書			99/05/07 20:04:00	需要レポート作成			
4	E-MAIL	99/05/13	14:30:00	99/05/07 20:30:00	D(株)佐藤氏来訪			

何處で・何故から・	誰に／何に	何を／何を	どの様に	どうする	何故・何の爲に	タイトル・メール	出席・参加・欠席
私に		突然	e-mailした	S社業務開始後			
12号全機蓋	販売計画			11(何名)			

[illegible]

BPRを如何に達成するか？

